

I D	
受付日	

※ 「ID」欄に修習専念資金IDを記載すること。

※ 「受付日」欄は、最高裁判所において記載するので、何も記載しないこと。

返還期限猶予申請書

令和 年 月 日

最高裁判所 御中

私は、(□最高裁判所から修習専念資金の貸与を受けていた者/□最高裁判所から修習専念資金の貸与を受けていた者の保証人/□その他())ですが、修習専念資金の返還期限の猶予を求めたいので、下記のとおり申請します。

記

1 申請者

氏名	フリガナ	
	氏	名
現住所	フリガナ	
	(〒 -)	都道府県
電話番号(自宅又は携帯(日中確実に連絡可能な番号))		※市外局番等は、左詰めとし、間に「-」を記入する。
修習専念資金の貸与を受けていた者との関係	<input type="checkbox"/> ①本人 <input type="checkbox"/> ②保証人 <input type="checkbox"/> ③その他	

2 修習専念資金の貸与を受けていた者(申請者が「本人」の場合は記入不要)

氏名	フリガナ	
	氏	名

3 返還期限の猶予を受けようとする期間(①又は②のいずれか又は双方を選択する。)

<input type="checkbox"/> ①初めて返還期限の猶予を受けようとする年賦金等の猶予の期間について 返還期限(令和 年 月 日)から令和 年 月 日まで <input type="checkbox"/> ②既に返還期限の猶予を受けた年賦金等の猶予の期間の延長について 返還期限(令和 年 月 日)から令和 年 月 日まで ※ []

(注意)

1 返還期限の猶予の期間は、返還期限から1年以内で当該猶予に係る事由(当該事由が司法修習生の修習専念資金の貸与等に関する規則(平成21年最高裁判所規則第10号。以下「規則」という。)第7条の2各号に掲げる事由である場合には、同条各号に掲げる事由に相当する事由)が継続すると見込まれる期間を記入する。

2 ※には、既に返還期限の猶予を受けた年賦金等が複数ある場合に、猶予の期間の延長の対象とする各年賦金等の当初の返還期限を記入する。

4 返還期限の猶予の事由(①から④までのいずれか又は複数を選択する。)

<input type="checkbox"/> ① 災害のため	
添付書類	被災証明書等及び返還が困難になったことを証する資料 申述書
<input type="checkbox"/> ② 傷病のため	
添付書類	診断書及び返還が困難になったことを証する資料 申述書
<input type="checkbox"/> ③ その他(①及び②に準ずるやむを得ない理由のため)	
添付書類	災害、傷病に準ずる事情を証する資料及び返還が困難になったことを証する資料 申述書
<input type="checkbox"/> ④ 経済的な理由のため (□規則第7条の2第1号に掲げる事由/□規則第7条の2第2号に掲げる事由)	
添付書類	規則第7条の2第1号又は第2号に掲げる事由があることを証する資料 申述書

(注意) 申述書は適宜の様式によることとし、返還期限において返還が困難である事情及び猶予を受けようとする期間において返還が困難である事情を具体的に記載する。

【記載例】

修習専念資金IDを記載してください。

ID	
受付日	

訂正する場合は、二重線で該当箇所を抹消してください。

~~由田~~

※「ID」欄に修習専念資金IDを記載すること。

※「受付日」欄は、最高裁判所において記載するので、何も記載しないこと。

返還期限猶予申請書

令和 ○○ 年 ○○ 月 ○○ 日

最高裁判所 御用 必ずいずれかにチェックを入れてください。

私は、最高裁判所から修習専念資金の貸与を受けていた者/最高裁判所から修習専念資金の貸与を受けていた者の保証人()ですが、修習専念資金の返還期限の猶予を求めたいので、下記の

戸籍姓を記載してください(旧姓・通称は不可)。フリガナは、必ず記載してください。

1 申請者

氏名	フリガナ	シホウ	イチロウ
	氏名	司法	一郎
現住所	フリガナ	サイタマケン ワコウシ ミナミ	
	(〒 351 - 0104)	埼玉県 和光市南2-3-8-201	
電話番号(自宅又は携帯(日中確実に連絡可能な番号))			
		0 4 8 - 4 6 0 - × × × ×	※市外局番等は、左詰めとし、間に「-」を記入する。
修習専念資金の貸与を受けていた者との関係			
<input checked="" type="checkbox"/> ①本人 <input type="checkbox"/> ②保証人 <input type="checkbox"/> ③その他			

現住所は正確に記載してください。また、郵便番号、フリガナも必ず記載してください。

2 修習専念資金の貸与を受けていた者(申請者が本人の場合は記入不要)

氏名	フリガナ	
	氏名	

必ずいずれかにチェックを入れてください。

申請者が「本人」の場合は記入不要ですが、他の方が申請される場合には必ず記入してください。

3 返還期限の猶予を受けようとする期間(①又は②のいずれか又は双方を選択する。)

①初めて返還期限の猶予を受けようとする年賦金等の猶予の期間について
返還期限(令和 年 月 日)から令和 年 月 日まで

②既に返還期限の猶予を受けた年賦金等の猶予の期間の延長について
返還期限(令和 年 月 日)から令和 年 月 日まで

※ []

該当箇所を記入してください。

(注意)

- 返還期限の猶予の期間は、返還期限から1年以内で当該猶予に係る事由(当該事由が司法修習生の修習専念資金の貸与等に関する規則(平成21年最高裁判所規則第10号。以下「規則」という。)第7条の2各号に掲げる事由である場合には、同条各号に掲げる事由に相当する事由)が継続すると見込まれる期間を記入する。
- ※には、既に返還期限の猶予を受けた年賦金等が複数ある場合に、猶予の期間の延長の対象とする各年賦金等の当初の返還期限を記入する。

4 返還期限の猶予の事由(①から④までのいずれか又は複数を選択する。)

<input type="checkbox"/> ① 災害のため	添付書類	被災証明書等及び返還が困難であることを証する資料 申述書
<input type="checkbox"/> ② 傷病のため	添付書類	診断書及び返還が困難になったこと(①～④のいずれかをチェックして、該当する添付書類を提出してください。)
<input type="checkbox"/> ③ その他(①及び②に準ずるやむを得ない事由)	添付書類	災害、傷病に準ずる事情を証する資料 申述書
<input type="checkbox"/> ④ 経済的な理由のため(□規則第7条の2第1号に掲げる事由/□規則第7条の2第2号に掲げる事由)	添付書類	規則第7条の2第1号又は第2号に掲げる事由があることを証する資料 申述書

(注意) 申述書は適宜の様式によることとし、返還期限において返還が困難である事情及び猶予を受けようとする期間において返還が困難である事情を具体的に記載する。